

白神通信

平成29年度第2回合同パトロールを開催しました。

9月23日(土)に第2回合同パトロールを開催しました。ニツ森と小岳の2コースに分かれて、このうちニツ森コースは、巡視員、八峰町、秋田県、米代西部森林管理署1名、東北森林管理局3名、藤里森林生態系保全センター2名、あわせて15名が参加しました。登山口前にて本合同パトロールの概要説明と当日のスケジュールを確認し、登山者へのマナー注意喚起や禁止行為が行われていないかを確認しながら、山頂に向けて登山口を出発しました。

当日は、時折小雨が降り、ブナの葉に雨が落ち霧がかかる幻想的なブナ林をパトロールしました。山頂に到着後は、当センターで作成した眺望パンフレットを片手に頂上から見える遺産地域や周辺の山々を眺めながら休憩をとり、山頂の標柱と一緒に全体の記念撮影をしました。道中において禁止行為やゴミはありませんでした。下山後はパンフレットを配布する等、登山客へ注意喚起を行いました。その後、参加された皆さんと感想や意見交換をし、無事に終了しました。



ニツ森で普及啓発



小岳でのパトロールの様子

の影響か」などの意見が出されました。

これから、ニツ森や小岳は紅葉の本番となり今後も巡視活動やマナーの啓発活動を努めていきます。

小岳コースは、巡視員、藤里町、環境事務所、秋田県、東北森林管理局等各関係機関14名が猿ヶ瀬園地駐車場に8時30分に集合し小岳登山口に向かい、ここから山頂までのパトロールを行いました。旧道班と新道班に分かれ、ゴミの回収や登山道の点検、標識類の状況確認、禁止行為(立木伐採や損傷、植物採取、たき火)が行われてないか等のポイントの確認を実施しました。また、登山口駐車場には宮城県からの夫婦がおり環境保護を呼びかけるパンフレットを配布しました。小岳登山道はきれいに整備され違法行為やマナー違反はありませんでした。最後に意見交換では、「小岳は初めてだがきれいに整備されていて良かった」「山頂のハイマツやササ、灌木など10年前にくらべ伸びたような気がする。温暖化

ニホンジカ対策、小型囲いわなによる試行的捕獲を開始しました。

藤里森林生態系保全センターではニホンジカ対策として、平成26年度から白神山地周辺地域にセンサーカメラによる監視を行っています。また、平成28年度から小型囲いわなによる試行的捕獲事業を実施しています。

センサーカメラについては、消雪により林道が通行可能になった4月中旬から設置を開始し、6月中旬に全26箇所の設置を完了しました。撮影された動物データの回収をエリア毎に、月に1回程度行いながら降雪により林道が通行できなくなる11月中旬まで設置予定です。

当センターで設置したセンサーカメラにはニホンジカは平成28年に10回撮影されています。今年度についても10月28日現在で13回撮影されており、昨年のニホンジカの撮影月日を見ると10月から11月にかけていちばん撮影されているので、今後さらに撮影回数が増えると思われます。

また、7月9日には能代市二ツ井町麻生にて白神山地周辺地域で設置したセンサーカメラでは初めてイノシシが撮影されました。イノシシは森林生態系への影響は不明な部分が多いとされていますが、増えすぎると影響をあたえる可能性もあるため、ニホンジカとともに引き続き監視をしていく予定です。

小型囲いわなについては、山に草類が多くなる5月末をもって中断していましたが、青森県側の核心地域に設置しているセンサーカメラに初めてニホンジカが撮影された事を受け、9月13日から秋期の小型囲いわなによる試行的捕獲を開始しました。設置期間中は月曜にわなの扉の開放やえさの交換を行い、金曜にわなの扉を固定します。また、わな周辺に設置しているセンサーカメラのデータの確認を行いながらニホンジカがわなに近づいていないか監視しています。

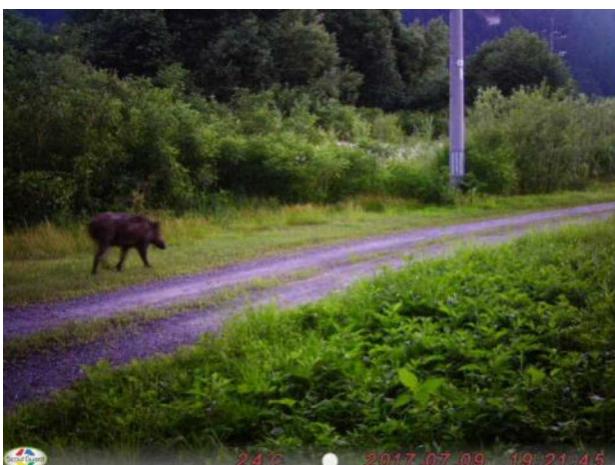
白神山地周辺地域でニホンジカがセンサーカメラに撮影される回数が増えてきていますが、まだ生息数はまだ少ないとみられ、捕獲は容易ではありませんが、エサが少なくなってくるこれからの捕獲の可能性が高くなってくると思われるので、試行錯誤をしながら捕獲に向けて取り組みを行いたいと思います。



9月13日小型囲いわな開始状況



平成29年6月27日
能代市二ツ井町梅内で撮影ニホンジカ



平成29年7月9日
能代市二ツ井町麻生でに撮影されたイノシシ



平成29年9月7日
能代市二ツ井町梅内で撮影されたニホンジカ

白神森林講座

第2回白神森林講座「田苗代湿原～藤里駒ヶ岳」

今年度第2回目の白神森林講座を秋田白神コミュニケーションセンターと共催で開催しました。当日は秋田市、能代市から10名が参加しました。

今回の講座は田苗代湿原での自然観察と能代・山本地区における最高峰の藤里駒ヶ岳(標高1,158m)までのコースで、その頂上からは白神山地の山々、岩木山などが眺望でき、眼下には素波里ダムが見られます。

田苗代湿原では、「デジカメ・スマホで撮る風景写真講座」として、被写体の構図の方法や影を利用した遠近の撮影の方法など上手な写真の撮り方を学びました。当日は雲一つ

無い快晴で、青空と木々のコントラストを活かした写真やニッコウキスゲやウラジロヨウラクなどの植物をいつもと違う角度でカメラにおさめていました。また、当センターが取り組んでいるシカ対策について、センサーカメラを設置している前でモニタリングについて説明をしました。予定した時間より早めの登山となり、途中で早めの昼食を摂り、水分を補給して深緑のブナ林をゆっくりと登山を楽しみながら一歩ずつ登りました。

また、歩道脇にはゴゼンタチバナやギンリョウソウ等が花を咲かせており、参加者はガイドからブナや植物についての説明等を聞きながら登山を楽しみました。山頂では望遠を使った白神山地の山々の写真の撮り方を学び、同じ風景も撮り方一つで違う表情をしており、参加者から歓声が上がる等、写真講座は非常に人気がありました。最後まで事故もなく、無事終了しました。



写真うまくとれたかな!

森林教室

早口小学校森林教室

9月12日(火)に大館市立早口小学校5年生17名が参加して森林教室を開催しました。この日はあいにくの雨で、当初予定していた岳岱自然観察教育林での自然観察会が中止となり当センター研修棟において午前中は白神山地に関する所長の講義、木製名札作りを実施しました。

午後から一時的に天候が回復したことから峨瓏(がろう)の滝に移動し僅かではありましたが自然に触れてもらいました。その後再び研修棟で葉っぱのしおり作りを実施しました。児童の皆さんは岳岱を楽しみにしていたようでしたが、名札やしおりの製作に夢中になって取り組み自分が作った名札を誇らしげにそれぞれの胸に取り付けていました。特に峨瓏の滝では通常より水量が倍以上もあったことから12メートルの高さから落ちてくる瀑布に感嘆していたようでした。児童からは「水の量が凄い」といった感想が寄せられ森林の水源かん養機能を肌で感じていました。



名札完成 みんなで記念写真



滝の水量すごい!

獨協大学生、岳岱自然観察教育林でボランティア活動

8月31日(木)に獨協大学経済学部国際環境経済学科3年生21名が岳岱自然観察教育林内のボランティア活動を実施し当センター職員3名が指導者として参加しました。

獨協大学ではエコツーリズムによる持続可能な地域づくりを学ぶため小笠原や屋久島などでゼミ合宿を行っており、昨年からは白神山地での合宿を藤里町において開催しています。今年は単にエコツーリズムの体験だけでなくボランティア活動を行い世界自然遺産の保護に携わりたいとの意向で合宿のコーディネートを務める地元ガイドが当センターに協力を依頼し実施することとなりました。ボランティア活動は岳岱自然観察教育林内のウッドチップコースでのチップ散布と外来植物の除去を行いました。

当日は当センター職員から実施方法等の説明を行いウッドチップの撒き方や外来植物の判定等を現地指導しました。ウッドチップは重量があることから運搬を懸念したところですが、学生からは「楽なもんでした」「余裕です」といった声が聞かれ、学生のパワーには懸念が杞憂に終わりました。また、「世界自然遺産の保護活動に関われることはめったにないので貴重な体験でした」という声も聞かれたところです。



ウッドチップ撒き完成

あきた白神まつりで「留山トレッキング」を開催しました。

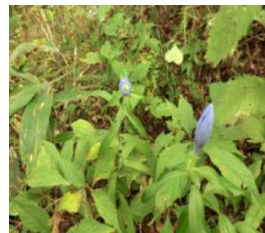
6月11日(日)、白神山地の価値と魅力、保全の大切さを伝え実際に体験するため、秋田県主催、地元自治体や環境省、東北森林管理局等が協力して「あきた白神まつり」が八峰町御所の台ふれあいパーク(あきた白神駅)で開催されました。当センターでは八峰町白神ガイドの会と「留山トレッキング」でガイド役を担当しました。留山は藩政時代に地域の自然を守るため伐採を規制した山で、今でも300年以上のブナやミズナラの巨木が鬱蒼と生い茂り、手軽に世界遺産の森と同じ体験ができる場として人気が高い山で、ジブリの映画「もののけ姫」の舞台のモデルになったと言われています。

トレッキングは午前と午後の2回行われ、それぞれ家族連れなどの多くの参加者が深緑のブナ林を楽しみました。林内にはモリアオガエルの卵が観察できたり、ランなどの花も咲いており、参加者からは、「里山にこんな良い森があることを初めて知った。とても気持ちよくトレッキングが出来た」と大好評でした。

帰りには「みこしの滝浴び」やJR東日本「いくぜ東北」のCMで有名な白瀑(しらたき)神社の滝を見学するなどのおまけもあり、見所盛りだくさんの楽しい一日を過ごすことが出来ました。

紅葉が色づきはじめ、七座山を歩くとかわいいリンドウの花とツルリンドウが実を付けていました。同じリンドウ科ですが、属が違います。山歩きで疲れた体にほっこりと秋を感じることができました。

リンドウ



秋の山を代表する多年草。20~100cmの高さになります。葉は対生し卵状披針形で先はとがり3脈は目立ちます。茎の先や上部の葉脇に紫色の鐘形の花が開きます。花期は9月~11月。根を乾燥したものは薬用になりこれを漢方では竜胆と呼びます。

ツルリンドウ



山地の木陰に生える多年草。茎は細長く、地面や草木にからんで長さ40~80cmになります。紫色で長さ3cmほど葉は対生し、葉のわきに淡紫色の花を付けます。

果実は液果で、残存する花冠の上に突きだし紅紫色に熟します。花期は8月~10月で赤い実が目立つと秋は終わりに近づいています。

編集後記

晩秋となりました。今年度まだ2ヶ月ありますが、私にとって今年度最大のびっくらこいたこと、8月下旬のあたたかい屋下が、マウントから頭を出している小熊を7m先で見ました。熊スプレーや写真そんなことは頭をよぎらず、ただひたすら、その場から逃げることに、精一杯でした。おまけに私の時計も止まってしまいました。普段、熊にあつたら、熊スプレーをもって、前からゆっくと退散してなんてまったくできなかった。教訓、まさに「晴天の霹靂」南無阿弥陀仏!

(M. H)